

群 教 セ	G11 - 02
	平20.240集

# 中学校における教育活動をキャリア能力の視点で 振り返る「キャリアノート」の作成

— 自己評価を基に行動目標を立てられる生徒の育成を目指して —

長期研修Ⅱ研修員 山本 暁

中学校新学習指導要領解説 特別活動編 学級活動の中にあるキャリア教育の充実や「自分を知る自己理解活動」の推進を図るため、これまでの教育活動にキャリア能力の視点を加えることに取り組んだ。具体的には各教科や学校行事等の「学習のまとめの時間」を使って自己の活動を評価し、それを基にこれからの行動目標を立てることで自己理解を深める手だてを構想し、実践を通して改善を図り、「キャリアノート」を作成した。

**キーワード** 【キャリア教育 自己理解 振り返り活動 キャリアノート】

## I 主題設定の理由

平成18年11月、文部科学省から「キャリア教育推進の手引き」が公示され、「全教育活動からのキャリア教育の推進」の中で、「自己の存在価値を理解させることで、積極的に学校での学習や諸活動にかかわる意欲と態度をもたせることができる」ことが述べられた。また、平成20年7月に公示された「中学校新学習指導要領解説」学級活動編の中では「キャリア教育の充実」が示され、「自分を知る自己理解活動」が奨励された。

しかし、平成20年3月、国立教育政策研究所のプロジェクト研究「学校におけるキャリア教育に関する総合的研究」（中間報告書）では、キャリア教育の現状としては依然として実践的な推進が行われていないことが述べられている。その要因として教員の理解不足等により学校の教育活動の中での具体的キャリア教育が浸透していかないことや、実践を通して目指す生徒像がイメージできないことが述べられている。

以上のようなキャリア教育の必要性と現状の課題から「学校の全教育活動からの具体的なキャリア教育の推進」と「自己理解を深める生徒の育成」を研究課題とした。

これまでの学校の教育活動を見直すと、意識されることなくキャリア能力を育成している活動がある。そこで、教科や学校行事等の教育活動をキャリア能力の視点で整理することで全教育活動からのキャリア教育を推進できると考えた。また、負担なくキャリア教育の推進するために、「学習のまとめの時間」を利用していこうと考えた。さ

らに、整理した活動を、キャリア能力の視点で振り返ってまとめることで、自己理解が深められると考えた。これらのことを通して、全教育活動から負担なくキャリア教育を推進できると考えた。

以上のことから、「学習のまとめの時間」を利用し、中学校3年間の全教育活動をキャリア能力の視点から整理した「キャリアノート」を作成する。

## II 研究のねらい

自己の活動を評価して、それを基にこれからの行動目標を立てられる生徒を育成するため、各教科や学校行事等の教育活動をキャリア能力の視点で整理した「キャリアノート」を作成する。

## III 研究の見通し

1 各教科や学校行事等をキャリア能力の視点で整理した「キャリアノート」の活用は、全教育活動からキャリア教育を推進する一例となるであろう。

2 各教科や学校行事等の「学習のまとめの時間」を利用して自己の活動を評価し、それを基にこれからの行動目標を立てられるようにノートの中の各ワークシートの構成を工夫することで、生徒の自己理解を深めることができるであろう。

#### IV 研究の内容と方法

##### 1 「キャリアノート」の基本的な考え方

図1は「キャリアノート」の基本構想図である。

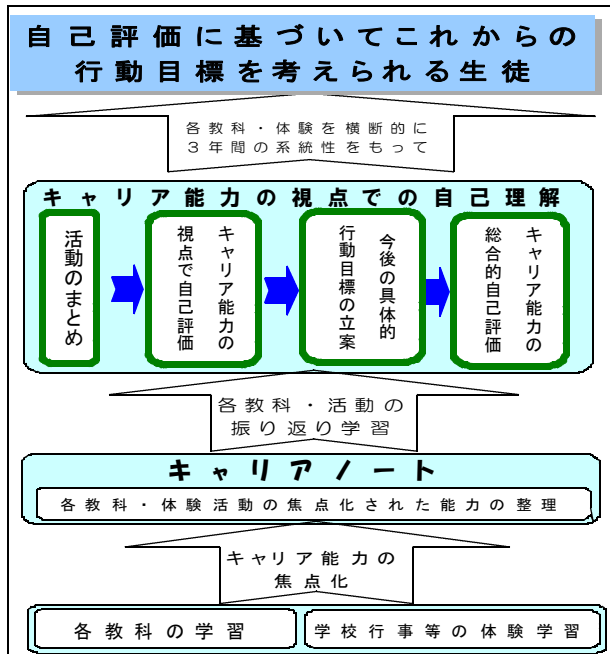


図1 「キャリアノート」基本構想図

全教育活動からキャリア教育を推進するため、これまでの教科や行事等の教育活動をキャリア能力の視点から整理した。キャリア能力とは、表1に示す8能力のことである。

ノートの各ワークシートに、自己理解を深める手順を構成した。また、負担なく実践するために、単元構成を変えずに、「学習のまとめの時間」だけを利用して振り返り活動ができるように工夫した。

教科や行事について、3年間の活動を1ページに整理することで、キャリア能力の変容を系統的に見ることができ、自己理解が深まると考えた。

また、中学校3年間の個人の記録を資料としてまとめ、個別支援の充実を図るために自己の考えを整理したことで、より深い自己理解ができるように工夫した。

表1 キャリアの4領域8能力表

4 領域	8 能力	
人間関係形成能力	自他の理解能力	コミュニケーション能力
情報活用能力	情報活用・探索能力	職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力	計画実行能力
意思決定能力	選択能力	課題解決能力

※職業観・勤労観を育む「学習プログラムの枠組み(例)」(平成14年11月国立教育政策研究所)において例示された4領域8能力

##### (1) 作成の視点

###### ① キャリア能力の視点で整理する考え方

図2は教科や行事をキャリア能力の視点で整理する基本的な考え方を示したものである。教科や行事として伸ばしたい能力と対応するキャリア能力ごとにノートに整理した。このことで、これまでの教育活動を生かした実践的なキャリア教育を推進できると考えた。

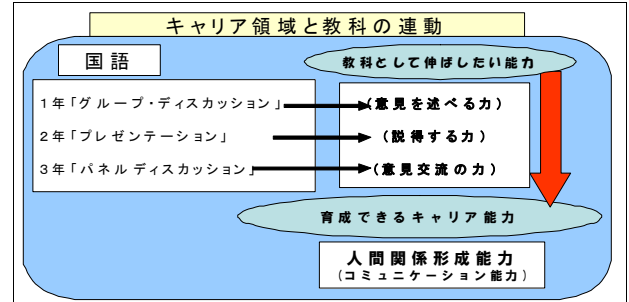


図2 キャリア能力の視点で整理する考え方

###### ② 「学習のまとめの時間」の利用

図3は「学習のまとめの時間」を利用する考え方について示したものである。負担なく全教育活動からのキャリア教育を推進するために、これまでの教育活動の単元構成を変えずに、「学習のまとめの時間」にその活動を振り返り、自己のキャリア能力を整理するノートとした。

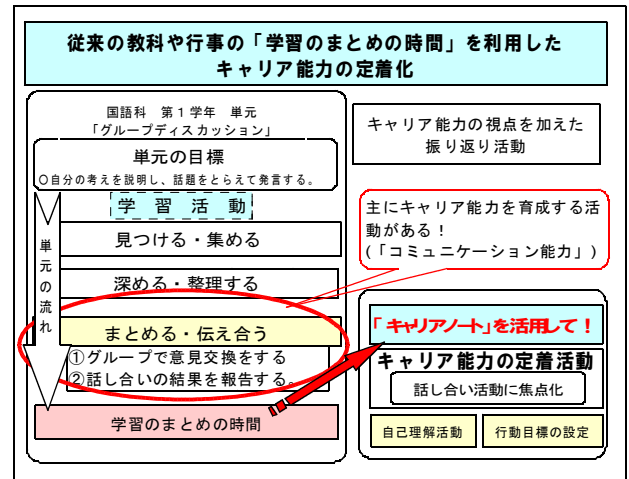


図3 「学習のまとめの時間」を利用する考え方

###### ③ 自己理解の深める手順

図4は自己理解を深める手順を示したものである。活動をまとめ、キャリア能力の視点で自己評価させ、その評価を基にこれからの行動目標を立てさせることで、自己理解を深めさせることができると考えた。

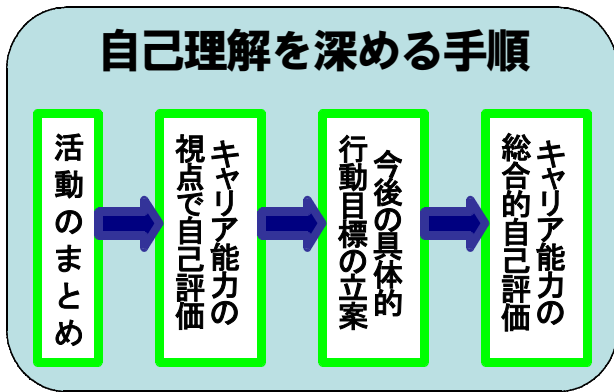


図4 自己理解を深める手順

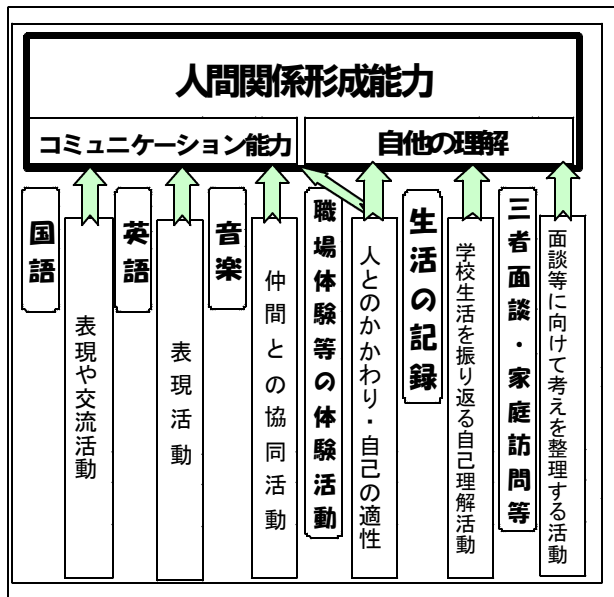


図5 人間関係形成能力の領域での横断的つながり

ア 活動のまとめ

キャリア能力の視点から自己の活動をまとめる。

イ 活動の自己評価

自己の活動をキャリア能力の視点で振り返り活動のよさや課題を自己評価する。このことで、自己のキャリア能力が明確になり、自己の存在価値を理解させることができると考えた。

ウ 具体的行動目標の立案

自己評価を踏まえて、これからの生活に生かすための行動目標を立てる。このことで、積極的に学習や活動への意欲や態度をもたせることができると考えた。

エ キャリア能力総合自己評価

活動によって理解が深まったキャリア能力を含む領域に関する評価項目に答えて総合的に自己評価する。

④ 3年間の横断的・系統的なキャリア教育

図5は「教科」「学校行事」「学級活動」「日常生活」等の横断的なつながりの例を示したものである。同じキャリア能力について、繰り返し振り返ることで、より深い自己理解ができると考えた。

単元ごとに、3年間の活動を1枚のシートにまとめた。このことで、発達段階に応じたキャリア能力の変容を系統的に見ることができ、自己理解が深まると考えた。図6は国語科のワークシートを示したものである。

国語科	人間関係形成能力		自分の個性を発揮しながら、他人の個性も尊重し、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協同してもう一つ取り組む力！
第1学年	グループディスカッション	第2学年	プレゼンテーション
第3学年			パネルディスカッション

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">自己理解を深める手順</p> <p style="text-align: center;">活動のまとめ</p> <p style="text-align: center;">自己評価</p> <p style="text-align: center;">行動目標</p> <p style="text-align: center;">総合的自己評価</p> <p style="text-align: center;">自己理解を基に行動目標を立てられる生徒</p>	<p style="text-align: center;">3年間の発達段階に応じた系統的なキャリア能力の変容</p> <p>自分の個性を発揮しながら、他人の個性も尊重し、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協同してもう一つ取り組む力！</p> <p>今回のプレゼンテーション活動の中では「自分の発表は「強みのある発表であったか」を次の手順でまとめて見よう！</p> <p>具体的な活動や理由(どのようだったか)</p> <p>どう生かす</p> <p>これから先の生活の中で「説明する」ということは大変なことだから「わかりやすく説明する」ということから具体的な行動目標を立てよう！</p> <p>目標を立てた理由(どのようだったか)</p> <p>行動目標</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">自己の存在価値を理解して積極的に諸活動にかかわろうとする生徒</p>
---	--	---

人間関係形成能力 総合自己分析			
分析項目	総合自己評価	分析項目	総合自己評価
自分のよさを理解し、自分の立場に立って行動できる。	点	自分のよさを理解し、自分の立場に立って行動できる。	点
他者の立場で自分の役割を理解して行動できる。	十分満足→A	他者の立場で自分の役割を理解して行動できる。	十分満足→A

「キャリアノート」を構成する3年間の活動をまとめた1シート例(国語)

図6 キャリアノートを構成する3年間の系統的な活動をまとめた1シート例 (国語科)

### ⑤ キャリアノート活用の手引き

多くの人に「キャリアノート」を使ってもらう手だてとして、教師用の「活用の手引き」を作成した。図7は音楽科のワークシートの「活用の手引き」である。指導のねらいを明確にし、自己理解を深めるための具体的な指導方法を示した。指導ポイントや生徒の記述を見取る観点を明確にするために、指導方法の中に記述例を示した。

**I 育てたいキャリア能力** <音楽科>

○人間関係形成能力  
自分や友達の間で大切なコミュニケーションをとって協力して取組む能力

**II 教科と育てたいキャリア能力との関連**

**1 教科の目標**  
音楽科  
音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。

**2 単元(学年)とねらい**  
合唱活動(全学年)  
・歌詞の内容や曲想を感じ取り、歌唱表現を工夫すること。  
・曲種に応じた発声により、言葉の表現に気をつけて歌うこと。  
・声部の役割を感じ取り、全体の響きに気をつけて合唱すること。

**3 育てたいキャリア能力との関連**  
曲種に応じた発声、声部の役割を理解して歌唱表現を工夫する合唱活動を通じて、仲間の個性を尊重しながら協力して取り組むコミュニケーション能力を育てることが期待される。

**III 指導手順**

**1 活動の確認**  
合唱活動の自己の役割を確認させ、自己の活動をキャリア能力の視点へと方向づける。

**2 活動の整理**  
教科の活動をキャリア能力の視点から整理させ、キャリア能力の育成との関連性を明確化します。

**3 自己評価**  
キャリア能力の視点から自己評価させます。このとき、根拠(理由)を書かせるようにしてください。よさや課題を具体的な根拠(理由)を持って評価させることで、それを基に目標を立てさせることができるようにさせたい。

**<自己評価例>**  
パート練習の場面で、音程や音量を合わせるためにいろいろな意見交換や練習方法を考えて練習できたことで、協力してきれいでイメージ通りハーモニーを作り上げることができた。

**<記述を見取る観点>**

○経験した活動を具体的に振り返った評価であるか  
パート練習の場面「意見交換」

○そこから学んだことの明確化できているか  
→「意見交換や練習方法を考えたことで、協力してハーモニーを作ることができた」

**4 行動目標の立案**  
教科の活動を通して学び気づいたキャリア能力をこれからの活動に関連づけます。ここでは、単なる目標とならない理由を付けさせるように工夫してください。

**<自己評価例>**  
協同で活動する場面で、意見の交換を大切にしていこうと同じ目標を持って頑張ることができると思っているので、相手の気持ちを理解できるようにしていきたい。

**<記述を見取る観点>**

○明確化した評価を生かす具体的な場面を想定しているか  
→「協同で活動する場面」「意見交換を大切にしたい」

○これからの生活に一般化しようとする目標になっているか  
→「相手の気持ちを理解できるようにしていきたい」

**5 総合的な自己評価**  
繰り返しキャリア教育を学ぶので、今までの活動を総合して自己判断をさせ、達成度合いを測らせます。自己判断には、視点を当てた情報活用能力に関する評価項目ごとに4点満点で判定して総合点を計算させて達成度合いを測らせます。

図7 「活用の手引き」(例)音楽科

### 2 「キャリアノート」の全体構成

図8は「キャリアノート」の全体構成図である。全体の構成は「行事」「教科」「3年間の活動の記録」「個別支援の充実」の4つの章とし、各章に含まれる項目とその活動を通じて育成できるキャリア能力を示した。

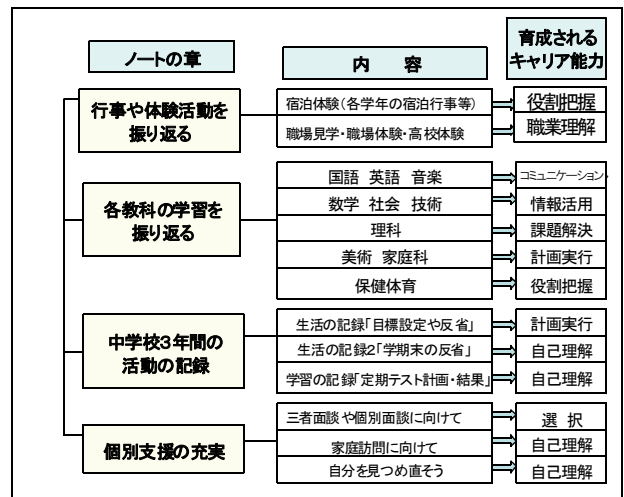


図8 キャリアノートの全体構成図

#### (1) 学校行事等から振り返る

学校行事等の中からキャリア能力を育成する活動を抽出して、3年間の活動を1ページに整理した。このことで、3年間のキャリア発達の変容を系統的に見ることができ、自己理解が深まると考えた。図9は職場体験などの体験活動をキャリア能力の視点から振り返るシートの一部である。

**体験活動** 情報活用能力 学ぶこと

第1学年 職場見学 第2学年

この体験から ということを書きなさい での体験から

**活動のまとめ** 各学年の発達段階を踏まえた系統的な振り返り活動

**自己理解を深める手順**

**キャリア能力の視点で自己理解**

**行動目標の立案**

**キャリア能力の総合自己評価**

自己評価に基に行動目標を立てられる生徒

図9 学校行事からの振り返り (例)職場・高校の見学・体験

#### (2) 教科を振り返る

各教科についても、学校行事等と同様に教科ごとに身に付けるべきキャリア能力を決め、3年間の活動を1ページにまとめた。国語科における例を3ページの図6に示した。

(3) 個人の記録

中学校新学習指導要領解説 学級活動(3)「学業と進路」の中で、「進路に関する情報を収集・整理して活用できる資料としてまとめる活動」が奨励されている。そこで、3年間の生活や学習の記録を内容ごとに整理できるように構成した。

図10は、3年間の活動の記録を整理するシートの一部である。

図10 活動の記録 (例)3年間の活動の記録

(4) 個別支援を充実させる資料

平成18年11月文部科学省「キャリア教育推進の手引き」の中で、「定期的な面談やキャリア・カウンセリング、家庭との連携を通じた個々の生徒の望ましいキャリア発達を支援することの大切さ」が述べられている。そこで、個別支援の個人資料として、三者面談や家庭訪問の場面で活用できるように構成を工夫した。

図11は3年生の進路決定に向けた三者面談事前資料のページである。「仕事に関する適性チェック」「受験計画の作成」「第一志望校の志願理由」等の進路選択に関する自分の考えを整理し、この資料を基に総合的に自己理解を深められるようにした。

図11 個別支援資料 (例) 三者面談事前資料

3 ノートの有効性の検証と汎用性を高める実践

(1) 授業実践のための準備

① 校内研修の実施

キャリア教育の推進にあたって校内研修を行うことが、職員のキャリア教育への理解を深め、実践への意欲を高めるのに有効であることがこれまでの研究で明らかにされている。そこで、協力校においてキャリア教育の理論に関する校内研修を実施し、「キャリアノート」について説明した。

② 「キャリアノート」作成のための事前調査

教育活動をキャリア能力の視点で整理した「キャリアノート」を作成するために、協力校の教科担当職員にアンケート調査を実施した。「教科で育成できるキャリア能力と単元や題材」についての考えを参考にしてノートの作成にあたった。各教科担当から示されたキャリア能力と各学年においてその能力を育成できる単元を表4に示す。

表4 協力校の教科担当からの意見

教科	キャリア発達能力	1年の単元	2年の単元	3年の単元
国語	コミュニケーション	グループディスカッション	プレゼンテーション	パネルディスカッション
社会	職業理解	身分と職業	身分と職業	職業選択
数学	情報活用	方程式の利用	連立方程式	2次方程式
理科	課題解決	課題研究	課題研究	課題研究
英語	自他の理解	自己紹介文	他者紹介文	日本文化紹介文
音楽	人間関係形成	合唱活動	合唱活動	合唱活動
美術	計画実行	絵文字をつくらう	不思議な立体	紙を生かして
技術	情報活用	コンピュータ	ものづくり	ものづくり
家庭	将来設計	被服製作	食品の選択と調理	幼児と交流
保体	人間関係形成	集団行動	集団行動	集団行動

(2) 研究協力校における実践計画

教科	視点・対象	指導者	内 容
学活 総合	職業理解 (全学年)	全学級の 学級担任	・職場見学、職場体験、高校見学 ・職業理解能力からの振り返り活動
家庭	計画実行 (全学年)	家庭科	・調理実習、被服実習、保育実習 ・計画実行能力からの振り返り活動
音楽	人間関係形成 (全学年)	音楽科	・合唱活動 ・人間関係形成能力からの振り返り活動

(3) 検証計画

【観 点】
「キャリアノート」による振り返り活動は自己理解を深めるために有効であったか。

【検証の方法】
自己評価と行動目標の記述の規準を定めてデータ化して分析する。
行動目標の記述を内容ごとに分類し、焦点化した能力との整合性を分析する。
ノートの記述の信頼性について「実際の活動」「日頃の生活の様子」の整合性を調べる。

(4) 授業実践例

① 音楽科の合唱活動の単元構成

図12は音楽科の合唱活動の単元構成と「学習のまとめの時間」を利用してキャリア能力の視点を与えた活動を示した構成図である。音楽科としての「声部の役割」や「表現を工夫して合わせて歌う活動」から育成が期待される人間関係形成能力の定着を図るため、「仲間との協力や自己の役割はどうであったか」という視点を与えて振り返り活動を行った。

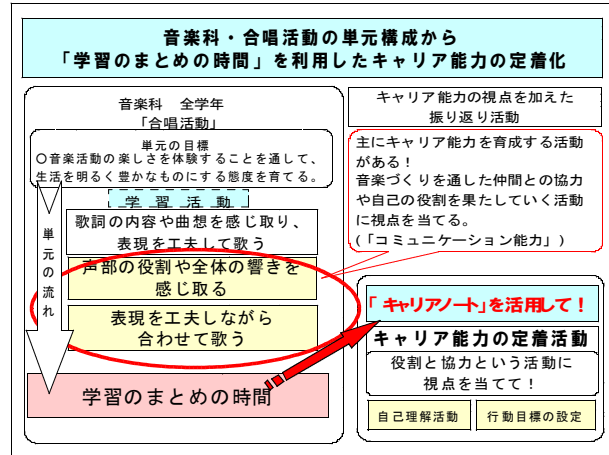


図12 音楽科の合唱活動の単元構成図

② 音楽科「合唱活動のまとめの時間」を利用した実践例

図13は音楽科「合唱活動の振り返り活動」での実践例である。

活動内容	留意点等
1 合唱コンクールを振り返った講評	合唱コンクール全体についての講評をすることで全体的なこれまでの活動を思い起こさせる。
2 本時のねらいの確認 どのような活動がキャリア能力の視点に結びつくのかを示すことがポイント	合唱コンクールのビデオを見ながら、コンクールに臨むまでのこれまでの取組を振り返り、この行事に向けてクラスや個人がどのような役割を果たしながら仲間とのかかわりを深めて協力してきたかを考えさせる。
3 合唱コンクールのビデオを見る。 4 クラスとしての講評と感想 キャリア能力の視点での活動にかかわるかを示すことがポイント	当日の合唱の講評とあわせて、これまでのクラスを取組についても講評する。合唱とは別に、この場面で意図的に「仲間とのかかわり」「役割」という今回のキャリア能力の視点での講評も入れることがポイント。 数名の生徒の率直な感想を出させる。
5 キャリア能力の視点での振り返り活動 ①学習のまとめ キャリア能力の視点から活動を振り返ることがポイント ②キャリアの視点での自己評価 「具体的な場面や理由」といった根拠を明確にさせた自己評価をさせることがポイント ③今後の具体的な行動目標 根拠を明確にさせて行動目標をたてさせることがポイント ④人間関係形成能力での総合評価	合唱コンクールに向けてのクラスや仲間との取組を通して、「集団の中での仲間とのかかわり」「自分の役割」という視点から自分を振り返り、よかったこと、あるいは課題点について具体的な理由をはっきりさせて自己評価する。 自己評価での自分のよかったことや課題を踏まえて、「仲間とのかかわり」や「自分の役割」という視点でこれからの行動目標を立てさせる。クラスでの取組や係活動などいろいろな場面を想定させ、その中で「自分のよさを生かすため」、あるいは「課題を克服するため」の目標を立てさせる。
6 行動目標を発表する。	視点を広げて、「人間関係形成能力」の視点から評価項目から総合的に自己評価をさせる。

**授業者の感想**

- ・教科指導からのキャリア能力ということの理解が深まった。
- ・今回のようにキャリア教育の視点で教育活動を見直すと、いろいろな活動がキャリア教育に結びつくことがわかった。
- ・合唱コンクールを人間関係の視点で振り返るということは考えつかなかった。生徒にとっても大切な振り返り活動だと思った。

図13 音楽科 合唱活動の「学習のまとめの時間」を利用した実践例

## V 結果と考察

### 1 ノートの分析方法

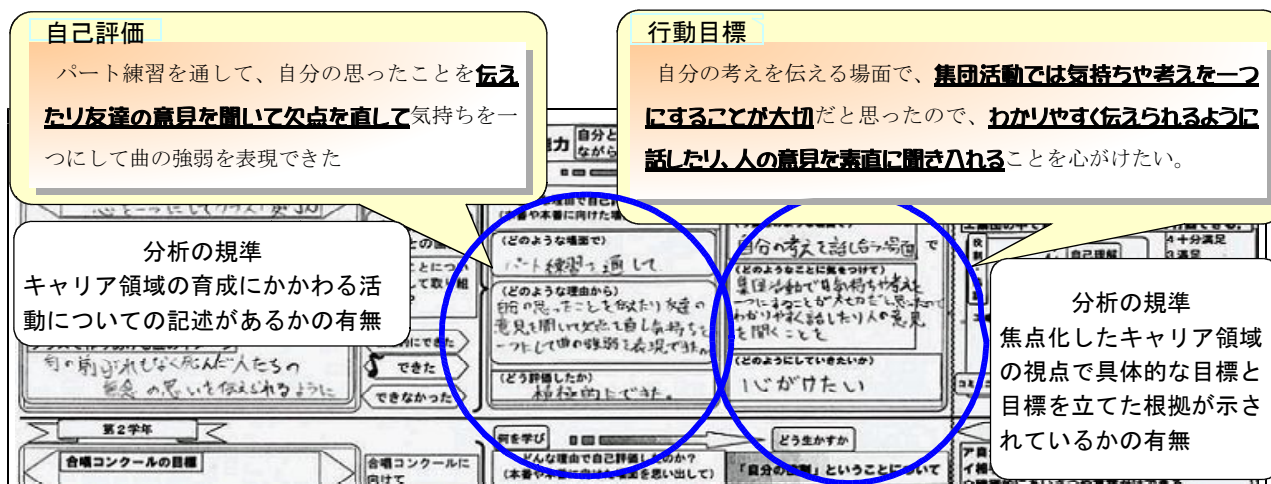


図14 音楽科 合唱コンクール人間関係形成能力の視点での振り返り記述例 中学3年 男子

ノートの自己評価と行動目標の欄に、キャリア能力の視点から自分の考えが記述されているかを分析した。

具体的な分析の規準は次のとおりである。自己評価の欄では「身に付けるべきキャリア能力について明確化した記述があるか」、行動目標の欄では「明確化した能力を生かして根拠をもった行動目標を立てることができたか」を分析した。図14は中学3年男子のノートの記入例である。

合唱活動を振り返る時に、「自分の役割や仲間との協力はどうかであったか」という視点を与えて自己評価をさせたところ、「伝えたり友達の意見を聞くことでグループの課題を克服できた」と自己評価している。このような記述から、コミュニケーション能力の育成にかかわる「意見の交流活動」に焦点を当てることができたと分析した。

行動目標を立てる時に、「集団と自己の役割ということ意識して目標を立てよう」という視点を与えた。「集団活動では気持ちを分かり合うことが大切だ」という根拠をもとに、「わかりやすく伝える」「意見を素直に聞き入れる」という行動目標を立てている。このような記述から、交流活動の経験を根拠に、コミュニケーション能力と他者理解能力の視点で行動目標を立てていると分析した。

### 2 教科にキャリア能力の視点を加えて整理した振り返り活動の有効性

音楽科の活動を分析した結果が図15である。人間関係形成能力の視点から自己評価できた生徒が全体で71%であった。さらに、自己評価で明確にした人間関係形成能力の視点で行動目標を立てることができた生徒は76%であった。このことから、音楽科の合唱活動にキャリア能力の視点を与えたことは、自己理解を深めるのに有効であったと考える。

自己評価よりも行動目標のほうが高い数値であった。その要因の一つとして、自己評価の際には気付かなかったことが、目標を立てる過程で考えを整理することができ、行動目標の欄に反映されたと考えられる。

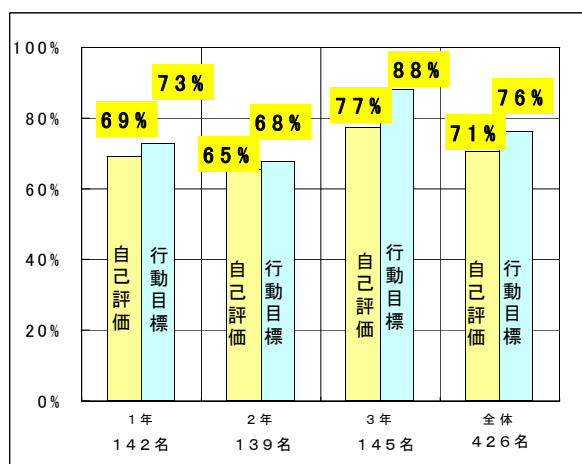


図15 キャリア能力の視点を持った振り返り活動

図16は昨年の音楽科の授業で合唱活動を振り返った感想文を、ノート分析と同じ規準で分析してデータ化した結果である。昨年度全体ではキャリア能力の視点のある自己評価は27%、行動目標は19%であった。

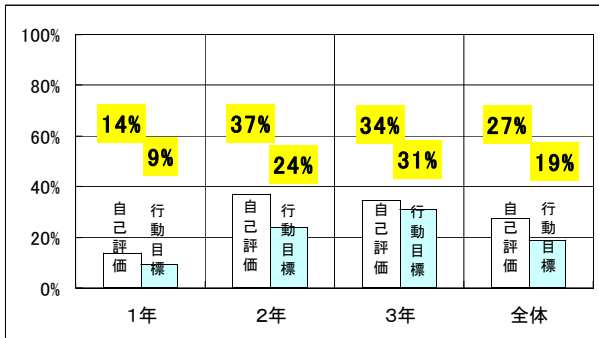


図16 昨年の感想文から読み取るキャリア能力の視点

キャリア能力の視点を与えてない感想文と視点を与えたノートと比較した。視点を与えたことで、自己のキャリア能力を見取ることができた生徒が、自己評価では43%、行動目標では57%増えていることがわかる。視点を明確に示したことは、自己のキャリア能力を明確化し、身に付けた能力を生活の場面に生かそうとする目標を立てる自己理解活動に有効であったと考える。この活動を、これまでの単元構成を変えずに、「学習のまとめの時間」を利用して実践できたことから、負担なくキャリア教育を推進するためにも有効であったと考える。

### 3 ワークシートの自己理解を深める手順の有効性

自己理解を深める手順は、活動で育成されたキャリア能力を自己評価を通じて明確化し、次にその視点を根拠としてこれからの行動目標を立てさせ、自己理解を深めるものである。合唱活動の自己評価で明確化した「人間関係形成能力」が、行動目標を立てる根拠に生かされているかを分析した。

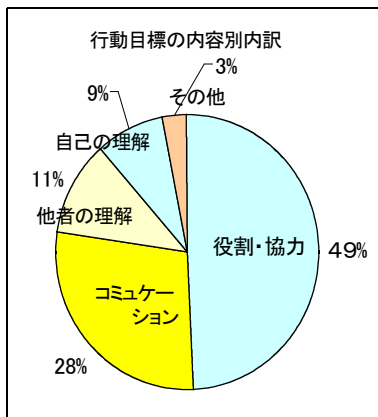


図17 行動目標の内容別内訳

根拠をもって行動目標を立てられた76%の生徒は、いずれも、これからの生活に向けて前向きな目標を立てていた。その根拠を分析し、分類した結果が図17である。行動目標を立てた生徒の

うち97%が、「学習プログラムの枠組み(例)」で示された人間関係形成能力の具体的な能力に対応する根拠を記述していた。自己理解を深める手順を用いることによって、自己評価の段階で明確化された人間関係形成能力の視点を根拠に行動目標を立てることができたと分析した。

これらのことから、自己理解を深める手順は、自己評価を基に自己の存在価値を理解し、行動目標を立て、積極的に生活に関わろうとする意欲や態度を育てるのに有効であったと考える。

### 4 自己理解を見取るノートの有効性について

ノートを活用することで正しく自己を理解できているかという観点から「ノートの記述」「実際の活動」「日頃の生活の様子」の3点の整合性を抽出生徒から分析した。

#### (1) 抽出生徒 中学2年 A男の分析

図18のノートの記述では、「お互い意見を出し合うコミュニケーション活動を通じて欠点を確認して改善しようとした」と自己評価している。その活動から伝え合うことの大切さに気づき、相手を意識して「わかりやすく伝えられるよう頭の中で整理する」という行動目標を立てている。

教師から見た活動の様子では、積極的にパート練習にかかわってグループをまとめ、歌い方や注意点の話し合いの中心となっていた。話し合いの成果が歌にも表れ、満足そうな表情であった。

教師の観察から見る日頃のA男は、積極的なリーダー的存在である。指示を出しクラスをまとめる力もある。

日頃の生活態度や活動の様子から分かるA男のコミュニケーション能力がノートの記述に反映され、行動と記述内容の間に整合性があると考えられる。

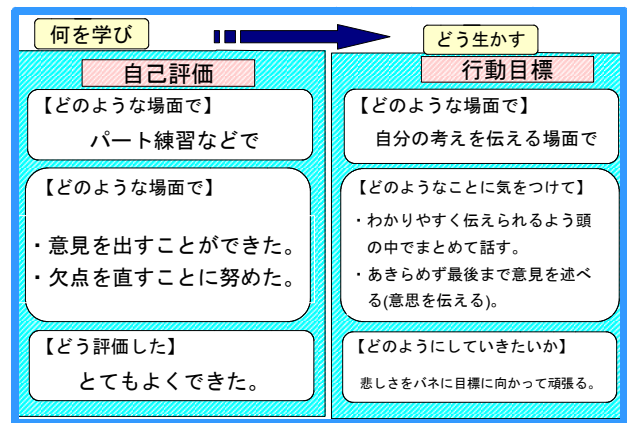


図18 抽出生徒 中学2年男子の記述



## (2) 抽出生徒 中学2年 B子の分析

図19のノートの記述では、「アドバイスを申し合う」という自己評価を踏まえて、「相手にも気遣う」という行動目標を立てている。

教師から見た活動の様子では、パート練習の合間にお互いの感想を伝え合いながら、歌う楽しさと同時に仲間との協同活動の喜びを感じている様子であった。

教師の観察から見る日頃のB子は、活発で誰とでも分け隔てなく接することができている。しかし、行動や発言が友達の誤解を受ける場面も見られた。

「伝え合う活動」から相手を理解する大切さに気づき、仲間との信頼関係を築くことができた。その経験を行動目標に反映させたと考えられる。

「相手を理解する」という記述は、B子の日頃の生活の課題を克服する目標である。

日頃の生活態度や生活の様子から分かるB子の他者理解能力の課題を克服するための目標がノートの記述に反映され、行動と記述内容の間には整合性があると考えられる。

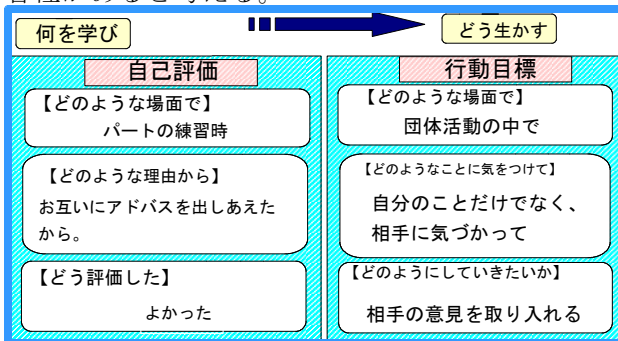


図19 抽出生徒 中学2年女子の記述

これらの結果から、「キャリアノート」による振り返り活動は、自己理解を深めるために有効であると考えられる。

## 5 「キャリアノート」全体の可能性について

表6は授業実践後、協力校の職員を対象に実施した「キャリアノート」に関するアンケート内容である。このアンケートの結果を基にノートの有効性について考察した。

表6 「キャリアノート」に関するアンケート内容

a 担当教科や校務分掌等の立場からみた「教科・行事のページ」を見ての感想や意見。
b 「個人や個別支援のページ」を見ての感想や意見。
c 「キャリアノート」全体に関して感想や意見。

## ① 学校行事から振り返る

「キャリア能力の視点から行事のつながりがわかり、それを意識化することができると思った。」  
「3年間の活動を振り返ることができると思った。」という意見があった。

行事にキャリア能力の視点を加えて整理したノートは、キャリア能力の変容を系統的に見ることに有効であるという評価を得られたと考える。

## ② 教科から振り返る

「音楽科の合唱活動を人間関係に着目して振り返るという試みは面白い視点で大切だと思った。」  
「教科のページを見るだけで、教科からのキャリア教育の実践例がわかって実践しやすいと思った。」という意見があった。

教科にはキャリア能力を育成する単元や活動があることを具体的に示すことができた。その単元や活動をノートに整理したことで、教科からのキャリア教育を実践した今回の研究について理解が得られたと考える、このことから、教科からのキャリア教育を推進する具体的実践例を示せたと考える。

## ③ 個人の記録

「自己実現のためには正確な自己理解と適切な情報収集能力が必要であり、自分の適性に合わせて将来を考えさせる活動として意義があると思う。」  
「自分自身を考える資料として使えると思う。」という意見を得られた。

自己理解を深めるための活動の意義やキャリア能力の視点で活動を整理したことで、総合的に能力を見取る資料としてのノートの価値が認められたと考える。

## ④ 個別支援を充実させる資料

「このノートを資料として活用できると思った。ノートを活用した相談活動をどう行っていくかが次の課題だと思う。」という意見があった。

自己の考えを整理して自己理解を深める資料としての価値は認められたと考える。進路相談や個別支援の際の具体的なノートの活用方法については、今後の研究課題として考えていきたい。

## VI 研究のまとめ

### 1 成果

#### (1) 教科や行事からキャリア教育を推進する実践例を示すことができた

音楽科の実践結果から、身に付けるべきキャリア

ア能力の視点を与えることで、自己のキャリア能力について理解を深められることが明らかになった。また、職員アンケートからは、「教科のページを見ることで教科からのキャリア教育の実践例がわかる」という意見が得られた。

このことから、キャリア能力で整理したノートを使った自己理解活動で、教科や行事からキャリア教育を推進する具体的な実践例を示すことができたと考える。

### (2) 負担なく推進するキャリア教育の実践例を示すことができた

音楽科の実践では、これまでの単元構成を変えることなく、「学習のまとめの時間」を利用することで、身に付けるべきキャリア能力について理解を深めることができた。このことから、これまでの教育活動を生かして「学習のまとめの時間」を利用したことは、負担なくキャリア教育を推進することに有効であったと考える。

### (3) 自己理解を深めるために有効な手順を示すことができた

ワークシートの「自己理解を深める手順」に従って振り返り活動をしたことで、自己のキャリア能力を明確化し、身に付けた能力を生活の場面に一般化しようとする目標を立てることができた。このことから、「自己理解を深める手順」は、手順に従って自己の考えをノートに整理でき、これまで見取ることができなかった自己のキャリア能力を見取る手順として有効であったと考える。

### (4) 中学校生活の活動の記録を一冊にまとめることができた

職員アンケートから「ノートを通して3年間の生活を振り返ることができる」「自分自身を考える個人資料として使える」という意見が得られた。

これまで各活動ごとにまとめていた3年間の活動を一冊に整理したことで、身に付けたキャリア能力を個人の総合的な能力として整理することができるようになったと考える。

以上のようなことから、全教育活動からキャリア教育を推進する具体的な手だてとしての「キャリアノート」を作成することができたと考える。

## 2 課題

### (1) 組織的なキャリア教育を推進するために教科や活動が担うキャリア能力の整理

本研究では教科や行事の特性に応じて身に付けるべきキャリア能力を1能力に整理した。しかし、

1つの活動から複数の能力を振り返ることが可能である。全教育活動からキャリア教育を推進するためには、学校全体で組織的に取り組むことが大切であり、そのためには、各教科や行事が担うキャリア能力を明確に整理することが必要だと考える。組織的なキャリア教育の推進を図ることを、これからの研究の課題として取り組んでいきたい。

### (2) 系統的なキャリア教育の推進

ノートを活用した実践を通して、自己理解の深まりを見取ることができた。しかし、自己理解を深めていくには、単発的な取組ではなく継続した実践が必要不可欠である。作成した「キャリアノート」も、中学校3年間の系統的なキャリア教育の推進をねらいとしたが、一年間の研究では3年間の個人の変容を見取ることができなかった。そこで、今後も継続的にノートを活用し、その有効性を検証していきたい。

## 3 まとめ

今回の研究では、中学校3年間の活動でこれまで意識されることなく育まれてきたキャリア能力を、「キャリアノート」に整理して総合的に自己を理解させることに取り組んできた。このことで、全教育活動からのキャリア教育の推進を図る一例が示せたと考える。また、自己理解を深める活動は、キャリア教育で目指す「自己の存在価値を理解して、積極的に諸活動にかかわる意欲と態度をもたせる」活動に迫るものである。現在の自分の能力を理解して、それを基に明確な目標を持ち、将来の夢や希望のために努力できる生徒の育成を目指して、今後もキャリア教育の推進に取り組んでいきたい。

### <参考文献>

- ・文部科学省『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き』（平成18年）
- ・三村 隆男 著 『キャリア教育入門 その理論と実践のために』 実業之日本社（平成16年）
- ・国立教育政策研究所『学校におけるキャリア教育に関する総合的研究（中間報告書Ⅰ）』（平成20年）
- ・京都教育大学附属小学校・中学校 著 『これならできる「キャリア教育」 一小・中学校の実践Ⅰ』（平成18年）